

令和2年度 日本大学櫻丘高等学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の教育理念である「自主創造」の精神を基に、「自ら学び」「自ら考え」「自ら道を開く」能力を持つ生徒の育成を目標とする。そのためには「生徒ファースト」の視点に立ち、個々の教員が一人ひとりの生徒と向き合いながら、様々な情報を共有し、全教職員が協力して生徒指導に当たる必要がある。これにより個々の生徒が学習活動や課外活動に生き生きと取り組み、知識ばかりではない全人格的な陶冶を果たすような教育を施してゆく。本校は70有余年の歴史を持つが、先人たちが培ってきた良き伝統の上に、現代社会におけるニーズに応える新しい教育を取り込む「不易流行」の精神を持って、魅力のある、選ばれる学校を目指していく。

【本校の特長及び課題】

本校では、総合進学（G）クラス、特別進学（S）クラスの2コースを設定し、日本大学を中心に個々の生徒の志望に対応した教育の充実と進学指導体制の確立を目指しており、令和2年度には特進（S）第1期の卒業生25名を出すことができた。特別進学クラスとして他大受験を目指してきたが、国公立大4名、いわゆる早慶上理20名、GMARCH40名の合格を果たすことができ、まずまずの結果だった。主として日本大学への内部推薦を目指す総合進学（G）クラスからは、日本大学へ368名進学を果たすことができた。それぞれのコースに応じたきめ細やかなホームルーム指導や生活指導で、生徒の自主性を育み、社会性も育成していることが特長である。

また、現代の社会の変化に対して身につけるべき学力の3要素、すなわち「基礎的な知識・技能」これらを活用するための「思考力・判断力・表現力」そして「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うために「櫻イノベーション」として、より一層充実した教育活動を展開している。

「櫻イノベーション」とはグローバル化が完成された現代社会において自己実現を図るための、セルフイノベーション（生徒自身、教職員自身の内なる変革）とスクールイノベーション（ハード・ソフト両面からの教育環境の変革）を意味し、その具体的な施策が次の4つとなる。

- ① グローバル教育（英語4技能とコミュニケーション能力を高め英語運用力を磨く）
- ② 体験型高大連携教育（日本大学16学部と連携し、広い視野に立った進路観を育成する）
- ③ アクティブラーニング×ICT教育（双方向の授業を展開して主体性、協働性を育む）
- ④ クリティカルシンキング（生徒自身に深く考えさせ、論理的思考や課題解決力、表現力を育む）

これらの各施策や定期試験、模擬試験、各学校行事やクラブ活動などについて、そのふり返りを通じて次のステップへと進化させる、PDCAサイクルを構築させるために、「Classi」の「e-Portfolio」機能を導入し、各行事、各学期、各年度の振り返り記録させている。また、様々な教育活動を通じて、個々の生徒が本校の目指す生徒像にどれだけ近づけることができたかを測る指標として、ルーブリック評価を作成した。今後の課題としては、「e-Portfolio」やルーブリック評価をいかに運用し、生徒の人格陶冶に活用して行くかということであろう。

令和2年度の実績結果

【概況】

令和2年は、3月早々に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全国一斉に休校措置がとられ、その後5月末まで家庭学習、6月に入って学年ごと午前・午後に分かれての分散登校、6月末から時差登校による短縮授業と、これまで経験したことのない学校運営となった。しかし、本校では、既に3学年揃ってiPadを配布してあるので、教員の授業動画を配信するとともに、ロイロノートスクールを利用して動画に対する課題の配信・提出を定期的に行い、生徒の学びを止めないよう運用した。2学期は時差登校・短縮授業を継続したが、3学期になり新型コロナウイルス感染症罹患者が拡大の状況となるとともに、再び時差登校と学年ごと分散登校、登校しない日にはライブでのオンライン授業を併用するハイブリッド型の授業形態を行った。多少のシラバスとの進度のずれは生じたものの、ほぼ予定どおり各学年での到達度目標を達成することができたが、文化祭、体育大会、修学旅行、校外教育、芸術鑑賞会などの学校行事や、海外語学研修、中・長期留学、卒業前海外語学研修などのグローバル教育に係る海

外での行事は全て中止となった。また、日本大学との高大連携教育については、12月の三者面談日に各学部から相談コーナーを設けた以外は、体験型高大連携教育の実施が不可能であった。アクティブラーニング×ICT教育に関しては、対面での討論は制限せざるを得ない状況なので、iPadを用いた双方向の授業を進めてきた。様々な制約の中でICT機器をフル活用して「櫻イノベーション」をいかに進めていくかが課題となる。

なお、グローバル教育に関して、来年度からは海外渡航が不可能となってもグローバル教育を止めないよう、デュアル・ディプロマ・プログラム（DDP）を導入する。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	<p>主体性・協働性、学びに向かう力、思考力・判断力・表現力育成の指針となるルーブリック評価の作成を進めた。自主創造や「櫻イノベーション」といった学校教育目標からベースとなるものを作成、授業や学校行事を通して見えない学力を可視化する。緊急事態宣言の影響で4月に実施するルーブリックに関する全教職員の研修会を7月に延期。その後、1月を目途に作業会を10数回実施。10月にベーシックルーブリックの完成後、サンプリングを行い、1月に価値観とスキルを完成させた。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業作りの実現に向け、教科ごとに年間の目標や取組を明確にし、4月よりシラバスに掲載した。さらに、「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力」を観点別評価で示し、併せて評価の一部とした。高大接続改革では、生徒が自ら課題を発見し、自発的に取り組む姿勢を育成するために、学習活動、学校行事等の振り返りをさせるポートフォリオの運用を開始した。</p>	A
家庭学習時間の増加	<p>自学自習の習慣化と家庭学習時間の増加で、基礎学力の向上を図る。平日は60分～90分、休日は120分以上を目標とした。特に、11月を家庭学習強化月間とし、日々や週単位の学習時間を進路手帳と「Classi」に入力させ振り返りをさせた。9月実施の到達度テストによる課題発見、弱点補強を行いスタディサプリによる課題配信をはじめとした学力向上プランを策定した。</p>	A
新カリキュラムの作成	<p>現行のカリキュラムの問題点のあぶり出しと反省を行い、本校の学校教育目標を具現化できるカリキュラムの作成を行った。SクラスとGクラスとのバランスや思考力や探究力を育成できる内容とし、3年次に選択科目の幅を持たせた。10月までに教科からの3か年の組立とそれに伴う単位数を報告してもらった。総合的な探究の時間をホームルームで実施することを決定し、令和3年度をその準備期間とする。Sクラスの在り方については、国公立対応型ではなく難関私立対応型にする方向で決まった。国公立はオプションとして対応することが決定した。当初のスケジューリングより遅れているが、令和3年5月の完成を目指す。</p>	C

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に策定した本校のいじめ防止対策基本方針を全面的に見直し、本年度4月1日付で改定した。より具体的な行動計画や実効性のある内容を軸とし、重大事態への対処についても詳細に明記した。 個人面談及び「学校生活アンケート」による生徒の理解・掌握を進め、些細なサインを見逃さないこと、相談しやすい環境作りを実践した。 	B

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大学の「いじめ防止、早期発見のためのリーフレット」を活用し、「いじめ」の概念を周知し「いじめ」は絶対に許されないことであるという点を教職員及び生徒・保護者に周知した。 	
登下校及び港内における社会生活上のマナーに対する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に「学校生活目標」を定め、スローガンのもとに各自の規範意識の向上を図り、互いに気持ちよく生活するために取るべき言動や態度について指導してきた。最寄駅では新型コロナウイルス感染症拡大防止のための時差登校により、平常時とは異なる時間帯に本校生徒が通行することによる混雑状況に対し、教員が駅構内に於ける通行指導を実践し、また、一斉下校時における下校指導も行うことでトラブルを回避しつつマナーの向上に努めた。 ・自転車事故防止のために「交通安全リーフレット」を配布し、全体説明会を開催して安全教育の充実を図った。 ・成城警察署による講話（薬物乱用防止・SNSの不正利用による被害防止等）を開催し、トラブルに巻き込まれないための知識を学ぶ機会を得た。 	B
SNSの利用に関わる問題についての指導	<p>本校生徒に関するWeb上の問題について「ネットパトロール」を依頼している専門機関講師による「ネットリテラシー講座」を実施し、昨今の高校生が直面しているインターネット上のトラブルや被害について詳細な説明及び注意喚起を行った。今年度は放送室から教室の電子黒板に資料を投影しながら、遠隔で講習会を実施した。</p>	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
次年度の芸術鑑賞内容の策定	コロナ感染拡大に伴い今年度の芸術鑑賞会が中止となったため、次年度の内容は今年度の内容のミュージカル鑑賞とした。	B
生徒会行事の実施の見直し	コロナ感染拡大に伴い文化祭、体育大会が中止となったので、次年度以降の結果をもとに検討を継続する。	C
部活動見学・説明会についての検討	コロナ感染拡大に伴い部活動見学会・説明会が中止となったので、次年度以降の結果をもとに検討を継続する。	C

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学人数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・6月・7月・9月に3年生を対象とした進路説明会を実施し、日本大学への進学制度、推薦入試制度についての説明を行った。また、2年生に向けて10月に進路説明会を実施した。 ・8月・12月の面談日の際に日本大学の学部案内を設置し、生徒・保護者が情報を得る機会をつくった。合計で2,000部以上の学部案内が生徒・保護者の手元に行き渡った。 ・12月の面談日の際に日本大学各学部（工学部を除く）を招き、進学相談や学部紹介を個別相談形式で実施し、129組の相談があった。 ・行事予定で計画をしていた「1年学部訪問」、「2年出張講義」は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。 	B
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年を対象に出願指導研究会を実施し、今年度の入試状況や出願動向の指導を行い、特進クラスを除く（特進クラスはホームルーム内で実施）一般入試志望者35名が参加した。 	C

	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期に1・2年を対象にリクルート適性診断を実施し、2年生では学部比較、1年生は職業探求をテーマにロングホームルームの時間や家庭学習日の時間を使い、進路観の育成を図った。 ・外部の方を招いての講演や外部に足を運ぶ機会はつくり出すことができなかった。 	
高大連携教育	新型コロナウイルスの影響により、文理学部との高大連携教育は全て中止となった。科目等履修生の受け入れに関しても中止となった。	C

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
保健衛生（健康管理）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の準備を十分に行い、スムーズな運営をすることができた。全員の受診が完了した。それをもとに学校医による健康相談を実施し、健康管理に努めた。 ・学校感染症などの情報を教職員・生徒に周知徹底し、予防が図られた。校内の新型コロナウイルス感染予防の対策を徹底し、また教職員のインフルエンザ予防ワクチン接種予防効果を高めた。 ・新型コロナウイルス感染予防として校内の次亜塩素酸ナトリウム溶液・アルコール・マイペットスプレーを使用して共用スペース・教室等の消毒の徹底をした。また「Classi」アンケートによる生徒及び教職員の健康管理を行い、体調不良生徒の早期発見や症状の把握に役立った。 ・新型コロナウイルスにおける体調不良生徒の報告や生徒及び生徒家族のPCR検査報告の流れを周知し各部署との連絡を行った。それにより迅速かつ適切な対応がとれており、感染の拡大を予防につながっている。 新型コロナウイルス感染疑いに係る出席停止生徒報告書を改訂しながら状況に応じた書類を作成して運用した。体調不良の生徒に対し、規定の出席停止の日数と症状の経過について学校と家庭で相互に連絡をし、生徒の登校復帰までの手続きを適切な手順で行った。 ・インフルエンザ感染については、罹患した場合の提出書類としてインフルエンザ罹患証明書の手続きの周知と確認を行った。現在まで罹患者は一人も報告されていない。 ・随時学年、クラス担任と情報共有や連携を取りながら、保健衛生の視点から生徒の安全と教育現場の充実を図った。 	A
生徒相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年全員が生徒相談資料調査を実施した。その結果について、各担任が西日本心理テストセンターの臨床心理士とのZoomアプリを通じて資料の読み取り講習会を実施した。解説と分析結果の説明を受け、教員の学級経営・生徒指導に役立たせた。 ・日本大学障がい学生支援教職員研修会に本校から2名の教職員が参加した。 ・生徒相談室の環境整備をした。 ・昨年度より特別支援ミーティングを実施し、スクールカウンセラーも交えて支援の必要と思われる生徒への情報交換を通して、適切な生徒対応を話し合った。 	B

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書室運営への生徒による積極的な参加	新型コロナウイルス対策のため、図書室における図書委員の業務が全くできなかった。今年度は選書に協力を依頼するにとどまった。	C
読書・学習環境の整備	赤本・参考書・問題集の選書・購入・整備を進めた結果、生徒の利用状況も非常に活発になった。 リクエストを募り、生徒の興味に合致した一般書籍の選書を進め、毎月「Classi」上で新着図書情報を図書便りで開示し、生徒の興味喚起に努めた。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
ホームページをさらに活用し、本校の特色を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は新型コロナウイルスの影響で外部における相談会等が中止となったが、オンライン学校説明会や学校紹介動画をYouTubeにアップし、ホームページで公開したことで、多くの方々に視聴していただくことができた。一方で、本校の各種行事が中止となり、生徒の様子を伝え切れなかった部分が反省として残った。次年度以降は、行事の時に限らず、普段の生活の一部を切り取り、新着情報に掲載するなどして、情報を発信できるよう努めていきたい。 ホームページの閲覧状況の分析については、定期的を実施し、閲覧者の関心事項を知る手がかりとした。今後は教職員会議等で、先生方にも周知していきたいと考えている。 これまでは本校ホームページのサーバーは文理学部コンピュータセンターの協力を得ながら運用していたが、アクセスが集中すると閲覧できなくなる状況が散見されたため、本部サーバーに切り替える作業を11月～12月にかけて行った。現状、大きな問題は起こっておらず、アクセス集中にも対応できると考えている。 	B
塾訪問を強化し、塾の先生方への本校PRを行う。	今年度は塾訪問を導入し、塾へのPRを強化した。令和2年3月から12月にかけて約600校の塾訪問を実施している。訪問の際は、夏休みまではイベントへの動員告知、夏休み明けからは令和3年度入試の詳細を中心としてPRを行った。この結果、塾からの問い合わせや、塾を介しての学校訪問が非常に増加した。また、9月に実施した教育関係者対象説明会に関しては、新型コロナウイルスの影響がありながらも、オンライン視聴を含めると例年同等の塾数の参加を得ることができており、非常に高い効果を実感している。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
ループリック検討委員会	当初予定していた3月のループリック研修が、新型コロナウイルス感染症対策に伴う休校措置のため7月に延期したため、作成の期限を9月から今年度中に変更した。8月以来、毎月1回～2回、合計10回の検討委員会を重ね、1月30日をもって「日大櫻丘ループリック」が完成した。このループリックは、本校のあらゆる教育活動（授業、試験、講習会、補習、ホームルーム活動、清掃活動、学校行事、クラブ活動、生徒会活動など）を通じて、日本大学の教育理念として掲げている「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道を開く」生徒	A

	<p>を育てるための指標とするとともに、生徒自身が理想の生徒像にいかにか近づけているかということ測る指標でもある。内容としては、生徒自身の行動原理や行動様式の基となる「価値観」には「WILL (意志)」、「PASSION (情熱)」、「CREATIVITY (創造)」、「DIVERSITY (多様性)」、「RESPECT (尊重)」の5つの領域を、理想の生徒像を創り出す技能となる「スキル」には「思考力」「判断力」「表現力」「人間関係力」4つの領域を設けて、それぞれ2～3のテーマごとにルーブリックを作成した。運用としては、今年度は1・2年生対象にルーブリックアンケートを実施、以後学期ごとに全学年でルーブリックアンケートに回答させることで、様々な教育活動を通じてどれくらい成長できたかを自己評価させながら、自主創造を体現できたかを可視化していく。</p>	
<p>特進小委員会の設置</p>	<p>特別進学（S）クラスの運営に当たって、これまでは特進運営委員会が担当してきたが、より綿密な運営ができるように特進主任（進路指導部副主任）を委員長として、教務部主任，進路指導部主任，特進クラス担任を委員とする特進小委員会を立ち上げた。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として休校措置や各種講習会，行事の中止などがあり当初予定していた特進クラス独自の教育施策がままならなかったが，その中でも模擬試験結果の分析，外部予備校講師による講習会の計画，リクルート社との提携によるドラゴン桜プログラムのオンラインによる講座，探求学習の一環としての英字新聞作成の計画などを行ってきた。また，3年特進クラス担任からの1・2年生特進クラス担任への，生徒の学習状況に関するアドバイスをいただくこともあり，本来意図していた特進クラスとしての縦のつながりができたので，設置の目的は果たすことができた。</p>	<p>A</p>

※【A達成できた，B大体達成できた，Cあまり達成できなかった，D達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

【オンライン授業】

ICT機器については既に整備済みで、生徒は全員iPadを持っていたので、3月～5月の休校措置の間は、教員が授業動画を撮影してロイロノートスクールを通じて生徒に配信し、特別編成の時間割を作成の上、生徒は時間割に従って動画を視聴、与えられた課題をロイロノートによって提出するというスタイルの授業を行った。6月の時差通学、分散登校の際には、登校しない日は動画配信と課題提出で学習の遅れが生じないように工夫した。7月からは短縮6時間授業を再開し、本来ならば夏休み中の7月下旬まで授業を行い、1学期の試験を7月末に実施した。2学期は9月より、感染予防として時差通学でラッシュ時間を避けて登校させ、短縮授業で通常の6時間（7時間）授業と放課後短時間の部活動を行った。短縮授業による学習の遅れについては、予めiPadに導入してあるスタディサプリの視聴と課題を用いて補った。1月以降の緊急事態宣言に際しては、時差通学と分散登校をさせ、登校しない日についてはZoomを用いたオンライン授業で通常的时间割どおりに授業を進めた。生徒の視聴状況はほぼ100%で、自宅から制服を着て授業に参加、体育の授業は体育着に着替えて自宅で運動をするなど、良好な状況であった。

【感染症対策】

生徒の時差通学、分散登校のほか、教員に対しても出勤時間を通常より1時間遅らせてラッシュ時間を避けるようにしたこと、休校期間中の不要不急の出勤を避けること、休日出勤は予め許可を受けることなど、なるべく人と接しないような対策を講じた。また生徒・教職員ともにiPadに導入してある「Classi」を用いて、毎日朝晩の体温と体調について「体調管理アンケート」へ回答させて、生徒に発熱や倦怠感などの症状がある場合には出席停止扱いとして登校させないようにした。本校関係者以外は入校を規制し、取引のある業者などが来校する際には3日前からの検温、体調管理シートの記入をもって入校を許可した。ハード面ではサーマルカメラを生徒昇降

口に設置して毎日の登校の際に発熱者がいないか確認，生徒一人ひとりにプラスチックのパーテーションと机上マットを配布し，授業や昼食の際に使用させた。情報の授業では，生徒一人ひとりにビニール手袋を配布，装着してキーボードやマウスを使用させた。昇降口，トイレ，教室に手指消毒用液を設置，放課後には教員が教室やトイレの消毒を行った。

【学校行事】

中止した行事：文化祭，体育大会，芸術鑑賞会，部活動合宿，Sクラス合宿講習，修学旅行，1学年校外教育
延期または形を変えて実施：令和元年度卒業式（放送），令和2年度入学式（放送），始業式・終業式（放送），健康診断（延期），外部予備校講習（動画配信）

【部活動】

3月～5月の休校期間中，1月～2月の緊急事態宣言期間中は全面中止。6月～12月は，長期休暇中も含めて時間を制限した上で，大会やコンクール等の必要に応じて実施

【校務分掌ごとの対策】

教務部

- ・5月～6月 動画配信によるオンデマンド授業
- ・1月～2月 Zoomを用いたオンライン授業 録画して動画も配信
- ・臨機応変に時差通学，分散登校を実施
- ・Google MeetやZoomを用いたオンラインホームルームを実施

生活指導部

- ・放送室から各教室に資料を投影しながらネットリテラシー講座を実施
- ・休校期間中のSNS利用に関して，数回にわたって注意喚起
- ・時差登校や分散登校，一斉下校の際の交通指導
- ・教室で机の下に身を隠し，廊下に整列という形での避難訓練実施

生徒会指導部

- ・櫻高祭（文化祭），体育大会，芸術鑑賞会など学校行事や生徒会活動の制限
- ・部活動体験会の中止に伴い，中学生への各部の活動をホームページより動画等で紹介
- ・合宿や遠征の中止，部活動時間の制限
- ・櫻高祭に代わって各部の発表を動画撮影し映像を教室で鑑賞

進路指導部

- ・各種模擬試験の中止や家庭での自主的な実施
- ・進路説明会を動画配信で実施
- ・各学部から講師を招いての講演会の中止
- ・文理学部との高大連携教育の中止 文理学部体験授業のWebでの実施

保健衛生部

- ・校内の次亜塩素酸ナトリウム溶液・アルコール・マイペットスプレーを使用して消毒の徹底
- ・「Classi」アンケートによる生徒及び教職員の健康管理
- ・体調不良生徒の報告や生徒及び生徒家族のPCR検査報告の流れを周知
- ・新型コロナウイルス感染疑いに係る出席停止生徒報告書を改訂し運用
- ・体調不良の生徒に対し出席停止の日数と症状の経過について学校と家庭で相互に連絡
- ・生徒登校時にサーマルカメラによる体温チェック
- ・飛沫防止用パーテーションと机上シートの導入
- ・教室のこまめな換気
- ・昼休みの教員の教室巡回と放送による呼びかけ

<p>図書部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退室時の手指消毒 ・貸出カウンターにパーテーションを設置 ・人が触れた本は全て消毒してから配架 ・換気の徹底 ・閲覧スペースの利用を制限 <p>広報部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月, 8月, 9月にオンライン学校説明会を順次公開 ・夏休み中, 人数を制限してキャンパスツアーを実施 ・9月, 10月, 11月に事前予約制によって人数を制限しての入試学校説明会を実施 ・11月, 12月の日曜日に人数を制限して学校見学会を実施 ・オンライン入試相談会の実施

令和3年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	主体性・協働性, 学びに向かう力, 思考力・判断力・表現力育成の指針となるルーブリック評価の適切な運用を進める。令和4年度からの本格運用に向けて, 令和3年度を試運転の年とする。自主創造や櫻イノベーションといった学校教育目標を体現するものとなるよう, 授業や学校行事を通して見えない学力を可視化し検証を重ねる。	2月中に全教員や全生徒にアンケートを取り, 試運用をする。4月以降生徒には, 冊子を配布。振り返りを行い, 自分の成長が可視化できる形のものとする。また, ホームページにも掲載し櫻丘ルーブリックを公表する。
グローバル教育の更なる推進	新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できない英国語学研修, ニュージーランド留学等の代替プログラムを実施する。オンライン語学研修やホームステイ, 交流プログラムを計画し, 国内にしながらグローバルを体感できるものとする。また, U. S.デュアル・ディプロマ・プログラムを導入し, 本校で在籍しながらアメリカの高校卒業資格を得て, アメリカの大学へ100%進学できるシステムを構築する。	3月に募集や実施スケジュールを検討・作成し, 4月に公表する。実施時期は8月, 12月, 3月等とする。デュアル・プログラムは, 3月に新入生に説明会を開催し, 5月からスムーズに導入できるようにする。
教員研修の充実	生徒の学びを止めないために, 教科指導, 探究やICTの活用例の研修会をはじめとし, 危機管理, キャリア教育, メンタルヘルス, コーチング, 人間関係力等必要な研修を実施する。教務部研修が中心となり教員研修の企画・立案及び運営を行う。適宜グループワークを取り入れ, 振り返りや情報の共有を行う。	年間スケジュールを3月までに調整・作成し, 4月に共有する。実施後に必ずアンケートを取り, 改善を図りPDCAを回す。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	日本大学「いじめ防止, 早期発見のためのリーフレット」の活用方法をより具体的にHR計画に反映し, 学年集会やロングホームルームを通じて全校生徒に周知す	新学年のスタートに当たり, ロングホームルーム計画の中に明記し, 実践する。新入生は入学

	る。	後に行われる校外教育のガイド ンスで周知する。
登下校及び校内における社会生活上のマナーに対する意識の向上	令和2年度に教員による交通マナー指導を重点的に実践し、近隣からの苦情が減少したことを受け、令和3年度も引き続き指導を立案・実施し、生徒の規範意識の向上につなげたい。	年度当初に指導計画を策定するとともに、状況を確認し、臨機応変に対応できる体制を整える。
SNSの利用に関わる問題についての指導	高校生が巻き込まれやすいトラブルとして最も懸念されるのはSNSの利用に関わる問題であることから、専門家による講演や具体的な指導を通じて未然防止につなげる。	新入生及び2学年に対するネットリテラシー講座及び成城警察署の講話を1学期中に実施する。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
芸術鑑賞会の充実	令和3年度の芸術鑑賞会を実施した上で、実施方法や鑑賞内容の中長期的に検討し、予定を作成する。	1学期中に内容の検討を行い、2学期には決定する。
生徒会行事の実施時期等の検討	学校行事のいくつかは実施時期を変更して数年経った。次年度は同様の実施時期を予定しているの、その状況をしっかりと把握した上で、生徒会行事の実施時期の再度の検討を進めていきたい。また、その際には中学生に対してのアピールも含めて体育大会や文化祭の実施形態や広報の方法等の検討も行う。	生徒会行事の終了ごとに、その行事の反省、並びに実施時期についての検討を進め、11月までには次年度の生徒会行事の実施時期、並びに内容を検定する。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 学部訪問の再開と出張講義を実施し、進路観育成の場をつくる。出張講義についてはオンラインでの実施も視野に入れ、可能な限り実施する。 日本大学学部別個別相談会を7月の面談期間に実施する。 各学年で進路説明会を実施し、日本大学への進学方法や入試制度についての知識を深め、日本大学への興味・関心を高める機会を設ける。 	学部訪問日・出張講義 10月2日実施予定 7月19・20日に実施予定 進路説明会 1年：6月26日 2年：11月20日 3年：5月1日・9月4日
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> リクルート適性診断やGAKUTAN(進学適性検査)各業者提供のものを利用しながらキャリア教育の充実を図る。 小論文テストや志望理由書の作成に向けた事前指導・事後指導の充実を図る。 	ロングホームルームの時間について教務と連携し、3年間を通じた体系的な指導ができるように実施時期の検討
高大連携教育	昨年度まで実施できていた高大連携教育(科目等履修生、文理学部体験授業、放課後学生チューターなど)の実施。科目等履修生に関してはオンラインも含めた対応を検討する。	科目等履修生：2月頃生徒案内、4月より各学部で実施。オンラインも含めた検討は委員会で意見済み 文理学部体験授業：9月26日実

		施予定
--	--	-----

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
健康診断の実施 感染症予防	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の実施に向けての準備 熱中症予防・新型コロナウイルス感染症予防と消毒作業の徹底をしていく。 	2月：業者打ち合わせ開始 始業式：健康調査票などの回収と確認 8月1日（土）：健康診断日 8月：熱中症予防の注意喚起 9月：感染症予防の注意喚起と手続きの確認
生徒相談 特別支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援に関する研修会参加の機会を増やす。各部署との連携を図り、生徒の情報共有と個別対応を周知徹底する。 1年生対象生徒相談資料調査を行い、問題行動を早期に見出し、深刻化しない段階で解決を図る。 	各学年よりヒアリングとミーティングを通じて、支援や配慮の必要な生徒についての情報を得る。 10月・12月・3月：ミーティング開催予定時期 6月：生徒相談資料調査 7月：臨床心理士によるデータ分析と解説

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
オンラインデータベース実用化の準備を進める。	図書室の蔵書と管理データが整い、全校生徒にiPadが行き渡ったので、オンラインデータベースの実用化の下地がそろった。データベース利用実施に向けて具体的に計画を進めていく。 利用が実現すると、インターネットを介して検索機能が利用可能な上、図書室の開室日時、話題の本のお知らせや予約受付やランキング表示、書評の閲覧などでもできるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書管理の細かな不備を訂正し、蔵書とデータを正確に一致させる。 業者との打合せを行い導入計画を作成する。 令和4年度に予算化して実施
ICTを活用した委員会活動の実施	新型コロナウイルスの影響が当面の間予想されるため、図書委員を実際に集めての業務はしばらく控え、オンライン上で仕事を共有する方向で委員会活動を積極的に推進することとする。	<ul style="list-style-type: none"> 「Classi」で図書委員会のグループをつくる。 オンライン上でできる図書委員の仕事を振る。具体的には、「図書便りの編集」、「お薦め本の紹介」、「ポップの作成」、「選書作業」等が考えられる。

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
動画コンテンツによる広報活動の拡充	これまではホームページや学校案内等で写真による生徒の活動を公開してきた。ただ、現在はYouTube等の普	4月から、業者と動画を作成する行事等に関して打合せ

	<p>及により動画視聴も気軽にできるようになったため、本校の取組を動画にて公開することを考えている。どの行事を動画として公開するかは今後検討していくが、今まで以上に学校や生徒の取組が鮮明に伝わる効果が期待できる。</p> <p>動画の作成は業者に依頼し、YouTubeの本校公式チャンネルへの公開を予定している。</p>	<p>撮影から公開までは、遅くとも1か月以内に展開できるよう準備を進める。</p>
SNSによる広報活動の強化	<p>ホームページやYouTubeでの教育活動、行事等の周知に加え、より受験生にとって身近な存在であるInstagramやTwitter、Facebook等を活用し、手軽に本校の活動をのぞけるようなコンテンツとしてSNSを活用していく。日常のふとした瞬間を写真として切り取って更新するなど、学校内での生徒の活動の姿を見やすくし、まずは受験生に興味を持ってもらうことを目的とする。更新ページ内にホームページやYouTubeへのリンクを貼り、より詳しい内容を把握してもらう狙いもある。</p>	<p>現在、Instagramの本校公式アカウントは開設済み</p> <p>TwitterやFacebookのアカウントも開設予定</p> <p>ホームページ上に上記SNSの本校公式アカウントのバナーを設置</p>

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
ループリック検討委員会（継続）	<p>生徒一人ひとりにループリックを配布して意識付けすることや、アンケートの実施後に前回との相違点を書かせて振り返りをさせるなど、ループリックに示されている各テーマに近づけられるような方策を検討し実施する。</p>	<p>4月新入生へループリックアンケートを実施し、その後は学期末ごとに全学年で実施し、振り返りをさせる。</p>
特進小委員会（継続）	<p>令和2年度は休校措置等が続き特進クラス独自の行事の運営がほとんどできなかったため、継続して特進小委員会を中心とした特進クラスへの指導を検討し運営する。</p>	<p>各学年の模試ごとの成績分析、弱点補強</p> <p>特進クラス卒業生による受験報告会など、特進クラスの縦のつながりの強化</p> <p>探求学習の実施等</p>

中長期的目標の取組結果

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
健康診断 熱中症予防及び感染症予防	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の実施内容変更に伴う準備と運営は、スムーズであった。また全校生徒の健康診断を行うことができた。健康調査票及び希望者への色覚検査により、「色覚異常」のある生徒の把握をした。 熱中症予防・感染症対策を周知徹底した結果、予防に役立っている。「Classi」やポスターを通じて、全校生徒へ熱中症予防・感染症予防の呼びかけを実施した。 <p>外部委託業者からの派遣医師による教職員及び非常勤教職員対象のインフルエンザ予防ワクチン接種を本校でも実施し、感染症予防に努めている。</p>	A

生徒相談	<p>相談室利用についての生徒・保護者への呼びかけは、ポスター、「学年便り」、「櫻丘広報」などを通じて随時実施した。生徒相談室に関して教員による開室の徹底は十分に図られなかった。</p> <p>生徒相談資料調査Σの実施とデータ分析と解説会を行い、生徒理解に役立たせた。</p> <p>インターカー取得への啓もうは推進できなかった。</p>	B
------	---	---

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「自主創造」を基盤とした生徒の人格形成	ベーシックループブックを生徒に回答させて、価値観やスキルについての伸長度を測り、その振り返りをさせる。	各学期の終わりにループブックアンケートを実施し、進捗度を振り返りノート（仮称）に記録させる。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
高大連携教育の継続的推進	日本大学のスケールメリットを生かして、各学部の体験時授業、学部説明会、本校生徒に対する講演会、特に文理学部との高大連携教育を推進する。	年間を通じて学部訪問、出張講義、体験授業への参加、科目履修などを通じて、生徒の進路観を育成する。